

オール沖縄で
医師のキャリアを考えるマガジン

Muru Uchina

ムルウチナー

2016 Winter Vol.01

Top Interview

沖縄と 私の約束。

沖縄県地域医療支援センター長
琉球大学医学部附属病院 病院長
藤田次郎先生

Take Free
ご自由にお持ちください



Muru Uchina

ムルウチナー



オール沖縄で 医師のキャリアを考えるマガジン

沖縄で活躍する医師たちを通して

沖縄の医療と臨床研修の魅力を紹介するマガジン『ムルウチナー』。

『ムル』は全部、『ウチナー』は沖縄を意味します。

島の人々の健康を守るためには

地域住民との“信頼関係”と地域医療機関との“連携”が必要不可欠です。

医療の本質と島の未来を見つめ続ける沖縄県の医師たちの

『ムルウチナー』を感じていただけたら幸いです。





2016 Winter Vol.01

INDEX



P.02
Top Interview

沖縄と私の約束。

沖縄県地域医療支援センター長
琉球大学医学部附属病院 病院長

藤田次郎 先生



P.06
Sunset of the Island

沖縄ドクター物語

P.10
OKINAWA Residents Story

沖縄の研修医の話。

那覇市立病院 初期研修医

川木詠美 先生



P.12
OKINAWA DOCTORS SCENE

沖縄で働く医師の話。

琉球大学医学部附属病院 産婦人科

若山明彦 先生

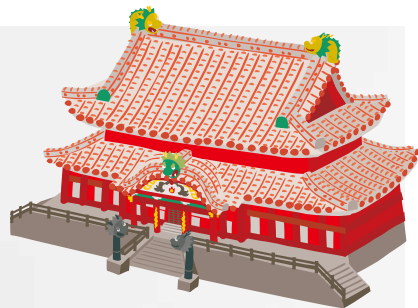
P.14
Islands in Okinawa #01

八重山



P.16
Muru Uchina Test
ムルウチナー検定





Top Interview

沖縄と私の約束。

開業医である母のもと香川県に生まれ、国内各所や米国での研究経験を経て、沖縄へ移住した藤田先生。

「那覇空港に降り立つたび、パワーを感じることができ、何より自分が元気になる」という沖縄でこの10年培ってきた実績と想いを聞いた。

INTERVIEW

沖縄県地域医療支援センター長
琉球大学医学部附属病院 病院長

藤田次郎 先生

Jiro Fujita

出身地:香川県
出身大学:岡山大学(1981年卒)
虎の門病院、国立がんセンター中央病院、
米国ネブラスカ医科大学留学、香川大学を
経て、琉球大学大学院医学研究科感染症・
呼吸器・消化器内科学(第一内科)教授に。
現在は病院長も務める。

アジア、世界へと通じる
最先端医療の現場が
ここ、沖縄にある。

「暖かな瀬戸内気候の中、香川県の高松で育ちました。沖縄と同じように小さな面積で、海には小さな島々が浮かんでいます。県民の数も、大きくは変わりません。しかし、決定的に違う点があるのです」と語るのは、琉球大学医学部附属病院の病院長を務める藤田先生。第一内科の教授となつてから、すでに丸10年が経つたという。

「沖縄は今、人口が著しく増加しています。その数は、毎年約1万人ともいわれ、私が沖縄に暮らし始めてから10万人も増えていると考えると、次の10年の変化も楽しみです」

「地域医療を考える」といえば少子高齢化を挙げざるを得ない都道府県がほとんどの中、沖縄は東京や大阪など大都市

に続くほどに若さと活気に溢れている。

「もちろん、観光もそう。2020年には日本国内がオリンピックで盛り上がり、インバウンドは増加の一途をたどるでしょう。国内外からさらなる人数を沖縄へ呼び込むために、私たち医師は住民の健康な暮らしだけでなく、沖縄へいらした方々の安心な滞在も支えていかねばなりません」

暖かさや沖縄の文化・風土に憧れて移住する人も多く、県は今後も150万人程度まで増加するだろうと予測。

「台湾や中国、韓国などへ直行便が就航しており、アジアから今後は観光に留まらない人の流れも生まれるでしょう。米国、中国の文化もさることながら、アジア各国と近いことから国際化も非常に進んでいます。うちの第一内科にもバン格拉デシユなどからの留学生がいて国際色豊

か。他の県では体験できない、未来型の医療圏と言つても過言ではないでしょう」

病院長として、内閣府への会議にも参加する藤田先生。数年後に予定される西普天間への病院移転に関しても、国家プロジェクトとして骨太な政府方針を制定しているところだという。

「現在、私は上海の大学でも客員教授として教壇に立っています。上海までは直行便で1時間半。東京へ行くよりもスムーズなことを考えると、これからは人・経済の両方の流れを変える可能性を秘めています」

東京から見ると遠いアジアも、沖縄から見ればすぐそこ。医療拠点が充実していけば、経済拠点として、安全な観光地として、安心して暮らせる住環境として、沖縄にはまだまだアピールしていきたいポテンシャルがある、と藤田先生は語つた。

Q. 先生にとって、
沖縄はどんな土地ですか？

A. 今、日本で最も
可能性を秘めている、
パワーがある場所。



沖縄と私の約束。

Top Interview

沖縄県地域医療支援センター長
琉球大学医学部附属病院 病院長

藤田 次郎 先生

Jiro Fujita



片時も忘れない、
私と、沖縄との約束がある。

「病院長ではありませんが、現役の第一内科教授として、本島北部と離島への医師派遣には引き続き力を入れていくことは変わりません。片時も忘れない、私と沖縄との約束です」
・第一内科の伝統と呼ばれるほどに、同科からは県北部の各病院や宮古島、石垣島へ医師を派遣してきたという。

「沖縄は研修先としては人気。那覇に至っては医師数は過剰とも言える状況です。しかし、深刻な医師不足が問題になっている地域もあります」

その伝統によって、今はへき地や離島での医療に取り組むたい医師が集まるようになり、志高い医師が自然と入局する好循環が生まれているという。
「戦争は、医師たちにも大きなダメージを残しました。大学の医学部設置が遅れたことも影響し、沖縄の医療には実践的な臨床メインの医学教育文化が根付いています」

さらには、県外で学んで来た医師が沖縄に戻って医療文化を築いたため、出身地や出身大学での軌轢も少ないという。

県外からの医師が受け入れられやすいことも初期研修先としての魅力だ。さらに、藤田先生は沖縄県民の気質もカギを握っている、と付け加えた。

「よく言われることかもしれませんが、私ですが、沖縄の人は優しい。私の甥も、実際に沖縄で研修を受けましたが、医師も患者さんも優しいと、いつも居心地の良さを話してくれました。人を優先し、教えることを苦勞と思わない人が多いから、教育を受ける地にびったりですし、この点は私も見習いたいですね」

今後、病院長・教授として医療に関わりながらも、夢は北部と離島に新たな病院を作ること、という藤田先生。

「県と一緒に、医師不足の地域の調査やコンサルティング、それに基づいた新病院の計画を進めようとしているところ。これからの沖縄、そして沖縄の医療は確実に面白くなるよ」

アジアの中心として発展する沖縄で、新たな医療環境で学べるチャンスの光を強く感じている藤田先生。沖縄との、約束は近い将来、きっと沖縄医療の原動力となっているだろう。

琉球大学医学部附属病院

University of the Ryukyus Hospital



院長名	藤田次郎 岡山大学出身
開設年月日	昭和59年10月1日
診療科目	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産科、婦人科、小児科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、精神科、神経科、放射線科、麻酔科、歯科、口腔外科、救急科、病理診断科
医師数	376名 (うち臨床研修指導医数：110名) ※研修医を除く
病床数	600床(一般病床550床)
外来患者数	1日あたり1,196.5人
入院患者数	1日あたり509.0人 (平成27年12月現在)

琉球大学医学部附属病院

〒903-0215 中頭郡西原町字上原 207 番地
電話 098-895-3331(代表)

<http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp>

琉球大学医学部附属病院の理念及び基本方針

琉球大学医学部附属病院は、「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。」という理念を掲げ、

- 1 生命の尊厳を重んじた全人的医療の実践
- 2 地域における保健・医療・福祉の向上に対する貢献と関連機関との連携
- 3 先端医療技術の開発・応用・評価
- 4 国際性豊かな医療人の育成

を大学病院の基本方針としています。本院は、平成19年3月に、エイズ診療拠点病院に、平成20年2月には、都道府県がん診療連携拠点病院として、平成21年11月には沖縄県肝疾患診療連携拠点病院として指定を受け、沖縄県における県内唯一の特定機能病院として、感染症やがん治療などを中心に高度医療および地域医療を担い、その使命と役割を果たすとともに、東南アジア地域における医療拠点としての貢献を目指しています。

琉球大学医学部附属病院の特徴

琉大病院は国立大学病院・医学部附属病院のひとつです。

また、特定機能病院の承認を受けている病院であり、通常の診療のみならず、専門的な診療や先進的な医療を提供する医療機関として位置づけられています。

さらに公益財団法人日本医療機能評価機構から「患者中心の医療の推進」「良質な医療の実践」「理念達成に向けた組織運営」の3つの項目で審査され、平成27年8月7日付けで病院機能評価(3rdG: Ver1.1)の認定証が交付されました。

Sunset of the Island

沖縄ドクター物語



初期研修時代





観光客の絶えないビーチ



大橋



よく来てくれた。



ごきげん？

暑くないかい？

なんか、
いい感じのご夫婦だ



わざわざ迎えに来ていただいて恐縮です。



おばあちゃん、
ありがとうございます。

はい、
うちの特製てびち汁。

これで午後も
診療ちばりよ。



おじいちゃん、
午後に来るかな？

おじいちゃん、
いるから午後だね。



はい……

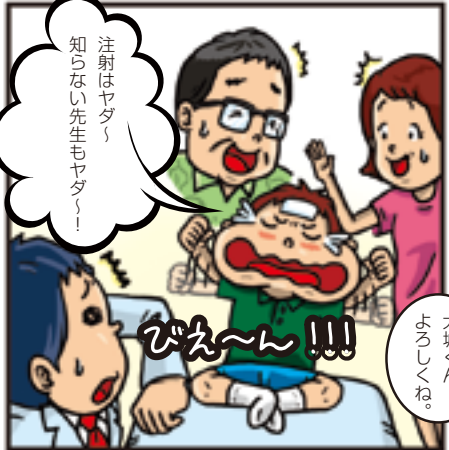
川平先生、
かりゆしウェアのまだ……

さあ、今日も始めるか。



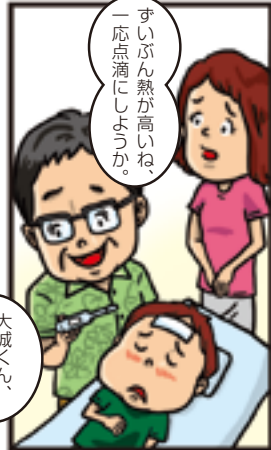
診療所

ここが、新天地が。
島らしい、親しみやすい
診療所だね。



注射はやダー、
知らない先生もやダー……！

びん〜ん!!!



すいぶん熱が高いね、
一応点滴にしようか。

大城くん、
よろしくね。



ん？？？
同じ沖縄のはずなのに……
患者さん、俺のこと
……見てない。



チャーびんざんざん
(ごめんください)



そうね、
XXXXXX
XXXXXX
XXXXXX



一瞬の付き合い合いです、
わからないことばかりだ……
おじいちゃん、
どんなところにあったらいいの。

それにしても、
那覇と違って、
世間話も多いな。
のんびりして
いるというか。



はいはい、
わかっています。

今年は虫にも蛇にも
気を付けてみおじいちゃん、
わかっているよ、先生、
じゃあ、いじめる薬、
よろしくね。



島の診療はね、
なかなか時間通りには
いかなかったわ。

はい……

大城くん、休憩は
もう少し待ってくれ



お腹減ったな……



すごい人数だ……





OKINAWA Residents Story

沖縄の研修医の話。

INTERVIEW

那覇市立病院
初期研修医

川木 詠美 先生

Emi Kawaki

出身地:沖縄県

出身大学:琉球大学(2015年卒)

現在、初期研修1年目を終え、引き続き
内科を中心にローテーション中。

Hospital Data



地方独立行政法人
那 覇 市 立 病 院

〒902-8511
沖縄県那覇市古島2丁目31番地1

TEL: 098-884-5111

FAX: 098-885-9596

<http://www.nch.naha.okinawa.jp>



地域研修中の医師から聞く
外から見た沖縄の良さを知る

「この一年間、とても充実して
いました」と言うのは、現在は
8つ目のローテーションで糖尿
病内分泌内科を回っている川木
先生。琉球大学を卒業後、すで
に地元・沖縄で働き続けること
を決めていたという。

「沖縄は初期研修の場として
全国的に人気。幸いにも沖縄で
生まれ育ったので、外に出ること
なく魅力的な環境にいるわけ
ですから、学生時代から県内で探
すことを決めていました」

将来的に小児科医を目指し
ていることもあり、那覇市立病
院を選んだという。

「内科を中心としたローテー
ションで、ほとんどすべての科
を網羅できます。もちろん外科
も十分な研修を受けられます
し、救急も県内有数の搬入数。
小児科の症例数も多く、何よ
り学生時代に見学した際の雰
囲気が決め手になりました」

医師同士のつながりはもち
ろん、看護師や栄養士、技師な
どに気軽に相談できる環境で、
看護師による人工呼吸器の勉
強会や検査技師によるエコー合
宿に参加できるなど、病院全



大事な時期である 初期研修の地が、 故郷・沖縄でよかった！

体から、研修医を育てよう、という想いが伝わるという。

「地域医療研修で他県から来た初期研修医からも『1年目から経験を積んでるね』『自分たちでマネジメントから考えて、よくやっているね』などと褒めてもらえます」

暖かさや海の青さ、食事やお酒の美味しさなど、沖縄を褒められる機会は多くあるが、沖縄の研修、そして自分の病院の研修を褒められることが一番嬉しいそうだ。

ホームであり、いつも温かな場所
ここ沖縄で、一生働いていく。

父親が地元で小児科を開業していたという川木先生。

「自分が中学1年生で、将来の夢を考える時期に差しかった頃、父が小児科を開業しました。故郷で開業にあたる父の想いや沖縄の子どもたちへの愛情を知る良い機会になりました。人として必要とされている父が格好良く見えましたね」

父の志を受け継ぎ、自分も実際に働くようになると……、そこには、若手ならではの葛藤も多いのだとか。

「患者さんと過ごすうち、その

人の背景などの疾患だけではなく、一部分が見えてくることに面白さも喜びも感じています。なるべく長く患者さんと接したいと思う反面、一日の仕事量をこなすことも大切で……。先輩医師に相談し、トライ＆エラーを繰り返しながら奮闘中です」

また、病状を告知する時間を初めて経験し、この仕事の重みも実感したという。

「肝臓にエコーを当てると腫瘍があり、検査を進めるとすでに転移もあった。先輩と病状を患者さんにお話しし、その後『この病気と闘っていきます。先生たちにお世話になります』と仰ってくださったときは、涙が止まりませんでした」

気丈に、そして相手のことを思いやり、医師と患者が関係を築いていくことの重要性を目の当たりに。尊敬する指導医に「初期研修医は、知識を身に付ける前にベッドサイドでいかに患者さんのことを把握できるかが重要だ」と言われたことを思い返したという。

「指導医の愛情も強いし、患者さんも本当に優しい。『休日まで来てくれてありがとうね』、『夜遅くまでご苦労さま』なん

て声をかけていただくと、温かい私のホームだと感じます」

笑顔溢れるおじいとおばあを診るうちに、小児科の子どもだけでなく、もっと多くの年代を診たいという気持ちも出てきたという川木先生。

「一つ心に決めていたのは、何科の医師になるかではなく、沖縄の人々の役に立てる医師になりたい、ということ」

自然とそう思われる環境で働けている、と言う。

「大学時代の教授が仰った『初期研修先選びは結婚相手を選ぶことと同じくらい大事』という言葉が、今では少し分かる気がします」

座右の銘

押して駄目なら
引いてみる



オフの日はリゾートでリフレッシュしたり、1・2年の研修医合同でバーベキューにでかけたりして楽しんでいます！
写真右上：与那国島の風景
写真左上：プール付きのリゾート
写真左下：バーベキュー



INTERVIEW

琉球大学医学部附属病院
産婦人科

若山明彦 先生

Akihiko Wakayama

出身地:神奈川県
出身大学:琉球大学(2006年卒)
琉球大学医学部附属病院、中頭病院産婦人科、沖縄赤十字病院産婦人科、沖縄県立八重山病院を経て、現在に至る。

家族と沖縄の住環境に支えられ
医師の仕事に集中できる

神奈川県・相模原市で育ち、高校時代は広島県へ。琉球大学医学部への入学を機に沖縄で暮らすようになり、今年で16年になるという若山先生。「人の役に立てる仕事で、全国各地どこへ行っても必要とされて働ける医師の仕事に魅力を感じていましたから、琉球大学へも自然と興味を持ちました」と当時を語る。

現在、若山先生は婦人科系の悪性腫瘍の手術など、オペをメインに担当している産婦人科医。科を決めずに回っていた初期研修中に、沖縄には脳外科医・麻酔科医に並び産婦人科医が少ないと知り、選んだ。「沖縄で出会った妻と結婚し、今では2歳と6歳の女の子と4人で暮らしています。出産というライフイベントを支える現場の近くで働くことも楽しいですが、患者さんが手術を終え、元気になつて帰られるのを見送る時に、何よりやりがいを感じます」

産婦人科という多忙な科で仕事をこなす分、2人の子育ては奥様に任せきりだという。「意外でしたが、沖縄での子育ては私が育った神奈川のベッドタウンと比べても、教育面・利便性とも大きな違いを感じない、暮らしやすい環境です。沖縄の住環境の良さと妻や家族に支えられ、仕事に集中できています」

医師同士の結束力・連携に触れた
離島での貴重な経験

たことは今も良い思い出です」

全国的にも出生率が高い沖縄県。妊婦の平均年齢は比較的若く、順調なケースが大半だったが、離島という条件下からリスク管理は徹底していた、という。

「当直中、たまたま産婦人科医が自分一人という時に緊急の帝王切開の患者さんがいらして……。上級医の外科や麻酔科の先生と無事に手術を終えた時にはホッとしました」

カンファレンスでは、必ず高血圧や糖尿病の合併症や妊娠中特有の病気など、気になる患者さんの情報を共有。医師同士の結束力が非常に強く、日頃から本島との連携も盛んなため、離島であってもリスクマネジメントさえ怠らなければ、苦労はあれども安心して働けたという。

「若手時代に離島へ行くのは怖い、と感じる方もいるかもしれませんが、苦労はあれども安心して働けたという。沖縄から離れることはないでしょう。沖縄の医療への想いはより強くなっています。仲間と支え合いながら、沖縄で暮らす人の健康な暮らしをより良くしていきたいですね」

めしたい」

離島研修を終えて本島に戻る頃に医師としての自信がつきはじめた、という若山先生。2人目の子ども誕生を機に、自らの家族の形も変化したという。

「昨年、『孫の成長を近くで見守りたい』と、私の両親も沖縄へ移住しました。もう、私が沖縄から離れることはないでしょう。沖縄の医療への想いはより強くなっています。仲間と支え合いながら、沖縄で暮らす人の健康な暮らしをより良くしていきたいですね」

沖縄での暮らしは家族がいるとより楽しいと話す若山先生。3世代でこれから始まるスロースライフを楽しみにしている。



離島の赴任期間は娘を連れて野球をしたり、島の新鮮なフルーツを買いにいったり、離島生活を満喫していました！



座右の銘

笑う門には福来たる

Hospital Data



琉球大学医学部附属病院

〒903-0215
沖縄県中頭郡西原町字上原207番地
TEL : 098-895-3331
<http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp>

家族・地域
みんなで築く
沖縄での暮らし。



ISLANDS

in Okinawa #01



八重山

(石垣)



八重山列島は石垣島を中心とする日本最南西端の島々です。23の島々のうち有人島は12島あります。

中心部の石垣島は那覇から南西へ約430kmの東シナ海に浮かぶ、沖縄本島、西表島に次いで県内3番目に大きな島。亜熱帯の豊かな自然と都市機能が共存する、サンゴ礁に囲まれた日本最南端のリゾートシティで、魅力はなんといっても絶景の海。日本百景にも選ばれた川平湾は一度は訪れて頂きたい美しい海辺です。

八重山諸島の経済、行政、観光の中核を担い、各離島へのアク





水牛車

西表島と由布島(ゆぶじま)を結ぶ水牛車は西表島観光の目玉! 遠浅の海を水牛車に身をゆだね、のんびりと由布島に渡ります。



サキシマスオウの木

西表島東部を流れる仲間川の上流部の川岸に生育する日本最大のサキシマスオウの木。



ハートアイランド(黒島)

黒島は人口約200人に対して牛の数はその10倍以上という、のどかな牧場の風景が島中に広がる放牧の島。ハート型の島の形から別名「ハートアイランド」とも呼ばれています。



八重山そば

麺が細くて丸く、縮れがほとんどなく、また、スープにほんのり甘みのあるのも特徴の八重山地方で食されている沖縄そば。



波照間島星空観測タワー

波照間島は、日本最南端の島であると同時に、日本で一番星がよく見える場所として知られています。



与那国島 Dr.コトー診療所

与那国島はドラマ「Dr.コトー診療所」のロケ地としても有名な日本最西端の国境の島。台湾まではわずか111kmで、年に何度かは海原の彼方に台湾の島影を望むことができます。

ガザミそば

高級品ノコギリガザミのハサミが鎮座する「ガザミそば」。



ACCESS

新石垣空港 ← → 羽田空港

所要時間 / 約3時間35分 便数 / 1日4便

新石垣空港 ← → 那覇空港

所要時間 / 約1時間00分 便数 / 1日約20便



シュノーケリング&体験ダイビング

美しく広がるサンゴ礁や日本唯一のマantaポイントなどシュノーケリングと体験ダイビングを楽しめる石垣島の海。各スポット(海)ごとにそれぞれに違う魅力を満喫できます。



八重山かまぼこ

石垣島のかまぼこは独特なものが多く、マルグーと呼ばれるものは細長く丸いかまぼこ。お土産・お中元・お歳暮として皆様に愛されています。



セスの起点となる「八重山の玄関口」となっています。

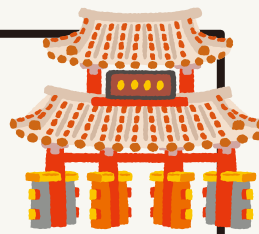
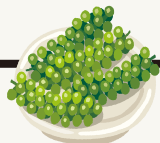
石垣島の周りには与那国島、波照間島、西表島、竹富島、小浜島、黒島などの有人離島があります。それぞれに島に診療所は1つ、ドクターは1人ずつしかいません。

西表島には診療所は2つあります。1つの診療所で約1000名の住民をカバーしています。そのため急患がいれば石垣島からドクターヘリで向かわなければなりません。

新石垣空港は2013年3月に開港したまだまだ新しい綺麗な空港です。

空港から石垣市内まで現状約30分の距離ですが、県道214号石垣空港線が新空港まで路線延長されることが決まっているので、開通すれば約13分の距離になり、今後の交通アクセス向上に期待がかかります。

個性豊かなサンゴに囲まれた島々をぜひ堪能してみたいいかが?



ムルウチナー検定

答え欄

Q.01 沖縄県でよく飲まれているさんぴん茶といえばもともとは何茶のこと??

A ジャスミン茶

B ウーロン茶

C プーアール茶

Q.02 平成26年度の沖縄県ドクターヘリ搬送実績は何回でしょう?

A 320回

B 361回

C 411回

Q.03 美ら海水族館はどこにあるでしょうか?

A 海洋博公園

B ブセナ海中公園

C 波の上うみそら公園

Q.04 沖縄県内の有人離島で面積が3番目に大きい島はどこでしょう?

A 石垣島

B 西表島

C 宮古島

Q.05 離島と離島を結ぶ橋の中で2番目に長い橋はどれ?

A 池間大橋

B 来間大橋

C 伊良部大橋

Q.06 沖縄県の3月の平均気温は?

A 16℃

B 19℃

C 21℃

Q.07 中国から伝わる“医食同源”という思想による「食事は体にいい薬」という方言はどれ?

A クスイムン

B クスイラズ

C クリイムン

Q.08 平成26年度の沖縄県民10万人当たりの医師数は何人でしょう?

A 228人

B 241人

C 250人

Q.09 ゴーヤーはビタミンCたっぷり! 100gあたり何mg含まれているでしょう?

※レモンは100gあたり約50mg

A 63mg

B 76mg

C 82mg

Q.10 沖縄県の名字ランキンギー位は?

A 大城さん

B 金城さん

C 比嘉さん

正解が
0~3問

未来の
うちなんちゅ

正解が
4~6問

THE
うちなんちゅ

正解が
7~9問

スーパー
うちなんちゅ

全問
正解

ミラクル
うちなんちゅ



Muru Uchina

ムルウチナー



オール沖縄で 医師のキャリアを考えるマガジン

「MuruUchina(ムルウチナー)」創刊号をお届けしましたが、いかがでしたでしょうか。

沖縄県地域医療支援センターは医師の地域偏在解消を目的とする組織です。

この冊子で少しでも私たちの想いをお伝えすることができれば幸いです。

ご意見・ご感想などお待ちしております。

発行



沖縄県地域医療支援センター

Okinawa Community Medicine Support Center

〒903-0215

沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

おきなわクリニカルシミュレーションセンター内

TEL: 098-895-1225

E-Mail: r0000000@jim.u-ryukyu.ac.jp

※ゼロが7つ

<http://www.chi.med.u-ryukyu.ac.jp>

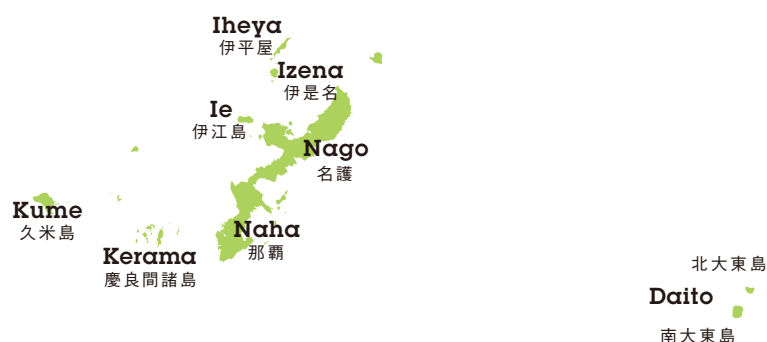


編集制作

【民間医局】株式会社メディカル・プリンシプル社

ディレクター・デザイン: 勝又シゲカズ 文: マンガシナリオ: さくまえり 撮影: 小菅聡一郎 マンガイラスト: 山田裕介





Yonaguni
与那国島

Ishigaki
石垣島

Miyako
宮古島

Iriomote
西表島

Hateruma
波照間島



沖縄県地域医療支援センター

Okinawa Community Medicine Support Center

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

おきなわクリニカルシミュレーションセンター内

TEL : 098-895-1225

E-Mail : r0000000@jim.u-ryukyu.ac.jp

※ゼロが7つ

<http://www.chi.med.u-ryukyu.ac.jp>

